

会津菊南瓜

(会津小菊座;会津小南瓜;会津早生)

1, 解説

日本カボチャに属し、350年前から会津若松市の門田町飯寺地区を中心に飯寺（にいでら）カボチャとして栽培されてきたとの記録もある。

未熟果は、暗緑色の地色に明確な虎斑がある。

成熟果の果面は平滑でうすい赤褐色となり表面にロウ質物が多い。

1果重は1以下と小型であり、果実内部は橙紅色で皮に近い部分に若干緑色が残る。

縦に10条の溝があり、それぞれに浅い縦溝があり一見すると20条に見える。肉質は粘質で、西洋カボチャとは食感が異なる。

草勢はやや弱く、葉にやや大きい白斑が現れる。

品質の優れる極早生品種として一時は県外でも広く作られていたが、西洋カボチャの普及とともにほとんど栽培は無くなった。

2, 写真



種子(左は会津菊、右は会津栗)



本葉1枚展葉時の草姿



側枝が伸長する様子



葉



着果時期のほ場



雌花



幼果



未熟果



熟し始め(収穫開始期)



完熟果



完熟果の断面



完熟果(上面)



いろいろな会津南瓜(ジーンバンク保管種子)

左上：会津早生 右上：中型会津

左下：会津菊 右下：会津小菊座

※もっともオリジナルに近いものは会津菊

3. 遺伝資源の栽培および保存状況

- ・会津早生の種子は大手種苗メーカー数社から発売されている。